

平成28年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

～ あんこう 鮫 鱈が紡いだむらづくりの輪 ～

受賞団体：ゆかい村風間浦鮫鱈ブランド戦略会議（青森県風間浦村）

◆むらづくりの背景・経緯

風間浦村は、本州最北端青森県下北半島の北西部、津軽海峡に面した風光明媚な村で、東西約20km、南北約8km、総面積の約96%が山林、原野となっている。キアンコウやイカ類などの沿岸漁業のほか、日本三大美林の一つである「青森ヒバ」の木材加工等を中心とした林業、下風呂温泉郷を中心とした観光業が村の基幹産業となっている。

漁業者の高齢化や後継者不足、旅行形態の変化に伴う観光客の減少による、漁業と観光業の衰退を防ぐことが課題となっていたことから、平成22年の東北新幹線全線開業を見据え、漁業と観光業が連携した交流人口の増加に向けた検討が始まった。

平成21年には、村内3漁協の組合員が中心となり、漁協組合員や観光関係者、村、県などを構成員とする「風間浦村きあんこう資源管理協議会」が発足し、平成22年に、前述協議会を母体として、「ゆかい村鮫鱈ブランド化戦略会議」を設立した。さらに「風間浦鮫鱈」として地域団体商標に登録されたことを機に、平成27年に「ゆかい村風間浦鮫鱈ブランド戦略会議」（以下「ブランド戦略会議」）へ名称変更した。

ブランド戦略会議は、「ブランド戦略部会」「鮫鱈PR部会」の2部会で構成し、下北地域の賑わい創出、地域資源の付加価値向上等を目指して取り組んでいる。

◆むらづくりの内容

○漁業生産面

キアンコウの漁獲量や漁期にルールを設け、資源管理の取組を通じたブランド化の確立により、漁業所得の向上につながっている。また、漁業者自ら率先して資源の生態把握に務め、資源管理型漁業により、次世代に引き継ぐ持続的な漁業を展開している。

さらに、村内3漁協の女性による海藻に特化した産地直売所「ふのりちゃん」の運営を通じて、地産地消の取組を推進している。

○生活・環境整備面

生きたまま水揚げされるキアンコウを起爆剤に、漁業と観光を融合させた「風間浦鮫鱈まつり」は、販路拡大や冬場の観光振興に結び付き、地域一体の取組に発展している。また、ブランド戦略会議が中心となって、漁協、温泉女将の会、商工会等が連携し、伝統的な漁法及び食文化の継承に取り組んでいる。また、水循環を守る活動として地域住民が参画した植樹、清掃活動の実施を実施するとともに、小学生に対する水産教室の実施による水産業等に関する理解の増進を図っている。



「風間浦鮫鱈」として
地域団体商標登録



「風間浦鮫鱈まつり」と清掃活動